

## 「他力本願」の誤用を、どう考えればよいのか？

### ◆質問◆

社会の変容、時代の流れとともに、言葉の解釈にも変化が生じるこ  
とがありますが、仏教語も例外ではないようです。特に浄土真宗で  
は、「他力本願」という言葉の誤用が、近年たびたび取り沙汰され  
ていますが、これはどのように考えればよいのでしょうか。

浄土真宗の教えやその用語には、誤解を招きかねないものがたくさんあり  
ます。たとえば、「歎異抄」の「善人なほもつて往生をとぐ、いはんや悪人  
をや」「親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏申したること、いま  
だ候はず」等々の法語です。これらの言葉に初めて接した人はびっくりされ  
ることでしょう。親鸞聖人というお方は、なんと非常識な人であったのかと  
驚かれる人もいることでしょう。「他力本願」という言葉についても、他人  
に依存した消極的な考えを示す言葉であると受けとめる人も大勢いること  
でしょう。

私たちは教育やメディアが発達したお陰で、たくさん知識や情報を手に  
入れることができるようになりました。コンピュータを駆使すれば、世界中  
の情報を瞬時に手に入れることができます。しかしそうした知識や情報の大  
半は、処世術のための手段です。換言すれば、自分の欲望を満足させるため  
の情報や知識といってもよいでしょう。一方、浄土真宗の教えやその内容を  
あらわす用語は、世の中を上手く生きていくための手段となるものではあり

ません。

それではいつたい、親鸞聖人は、何を求め何を明らかにされたのでしょうか。聖人は二十九歳の時二十年間修行した比叡山を後にし、六角堂に百日間参籠さんろうされました。その後、法然上人のもとへさらに百日間通われています。

『惠信えしん尼消息にししよく』によれば、「生死しじう出づべき道じい」を求めてのことであつたと記されています。「生死しじう出づべき道じい」とは、私たちが避けて通ることのできない苦悩を解決する道のことをいいます。聖人は当初それを自力の道に求められたのです。自力とは、

自力といふは、わが身をたのみ、わが二ころをたのみ、

わが力をはげみ、わがさまざまの善根をたのみとなり

とあるように、わが身、わが心をたのみとすることをいいます。しかし親鸞聖人にとって問題になったのは、そのたのみとすべき自分自身だったのです。

聖人は『教行信証きょうぎょうしんじょう』「化身土卷けしんどかん」に、

しかるに常没じょうぼつの凡愚ぼんぐ、定心じやうしん修しがたし、

息慮そくろ疑心のゆゑに。散心さんしん行じがたし、廢はい悪修善あくしゆぜんのゆゑに。

二ころをもつて立相住りつそうじゆ心なほ成じやうじがたきゆゑに、

「たとひ千年の寿じゆを尽くすとも、法眼ほうげんいまだかつて開けず」

と記されています。愚かな凡夫には、『観経くわんぎやう』に説かれた定善じやうぜんの行も、散善さんぜんの行も修めることができない。だから、たとえ千年という寿命を費やしても、真実を見る知恵の眼を開くことはできない、というのです。この愚かな凡夫とは、まさしく親鸞聖人ご自身の姿だったのでないでしょうか。聖人は自らをあてにした自力修行では、二十年という歳月を費やしても、自らの抱え

ている苦悩の解決、さとりを開くことはできなかったのです。聖人の求道が真剣なものであればあるだけ、自ら歩んできた道では目的は達成されないと分かったときの絶望感は、筆舌に尽くしがたいものがあつたと思われれます。そうした絶望の淵にあつたとき、今度は逆に目指すべきさとりの世界からはたらきのあることに気づかれたのです。それまではただひたすら、わが身をたのみとして苦悩の解決を図っていたのが、めざすべきさとりの世界からはたらきによって、たのみとしていた自らの姿がありのままに照らし出され、ありのままの自分がそのままに、そのはたらきによって救われていくことに気づかれたのです。それが法然上人の導きによる他力本願の法との出遇いだつたのです。

バブル景気が崩壊して後、しばらく心の時代ということが新聞紙上等で取り上げられました。欲望を重視した考えからの転換を訴えたものだったのでしよう。しかしながら、自分自身に目を向けることはなかなか難しいようです。私たちの目には、たえず外にばかり向いています。しかも外に向いたその目は、自分の今もつている価値観を信じて疑わない目です。その目を通して見ることにより、自ら苦を生み、他の人も傷つけていることに気がまかせん。親鸞聖人は逆にそうした自分自身を問い続けたのです。その結果出遇ったのが、自分自身の姿がありのままに照らし、そのままに救い取ってくださいる他力本願の法であつたのです。

そのような性格の法を、処世術のための手段として受け止め、その範疇で理解しようとするとところに混乱を生じる原因があると思われれます。